

領域Ⅱ 男女双方の意識改革

1 性差に係る固定的な意識の解消

性別にかかわらず、自分らしく選択できていると感じている人は

58.0%

性別にかかわらず、働き方や暮らし方を自分らしく選択できていると感じている人は、全体で58.0%となっており、前年度より3.8ポイント減少しました。男女別にみると、女性(56.1%)より男性(59.8%)のほうが割合が高くなっています。

「ジェンダー」という言葉と内容を理解している人の割合は

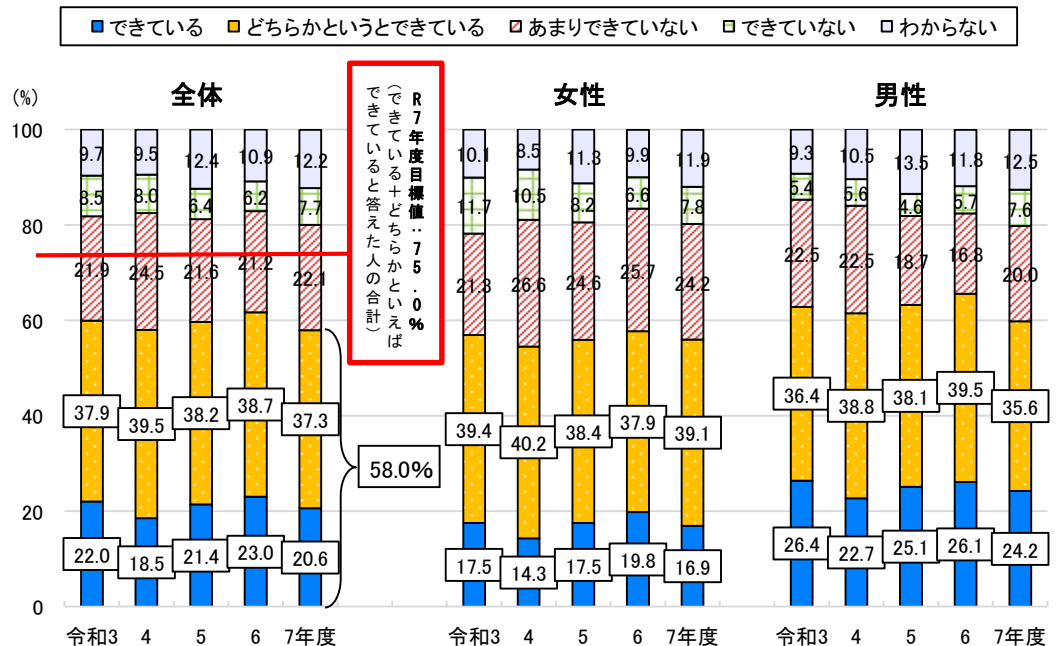
女性 60.4%

男性 51.2%

「ジェンダー」という言葉を知っていて内容も理解している人の割合は55.7%で、女性60.4%、男性51.2%となっています。

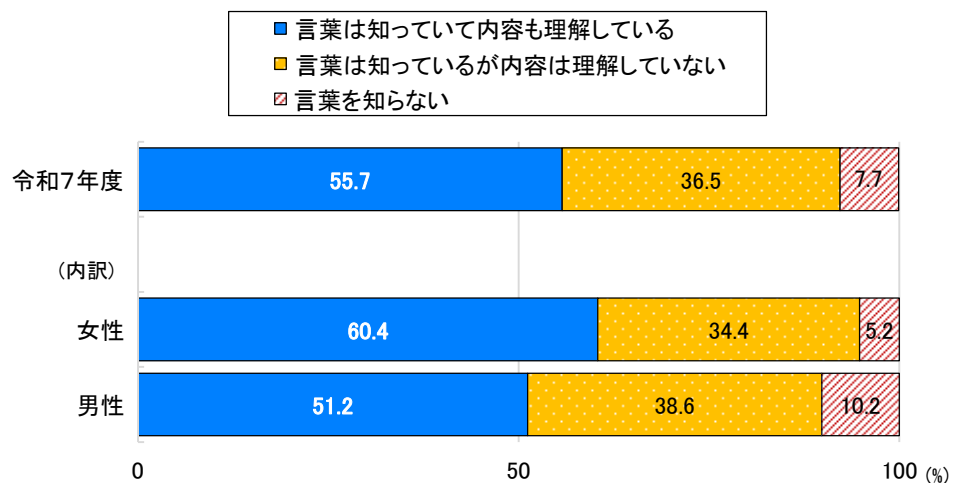
36. 性別にかかわらず、働き方や暮らし方を自分らしく選択できていると感じている人の割合

プラン成果指標



資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」
(調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女2,044人)

36-1. 「ジェンダー」という言葉の認知度



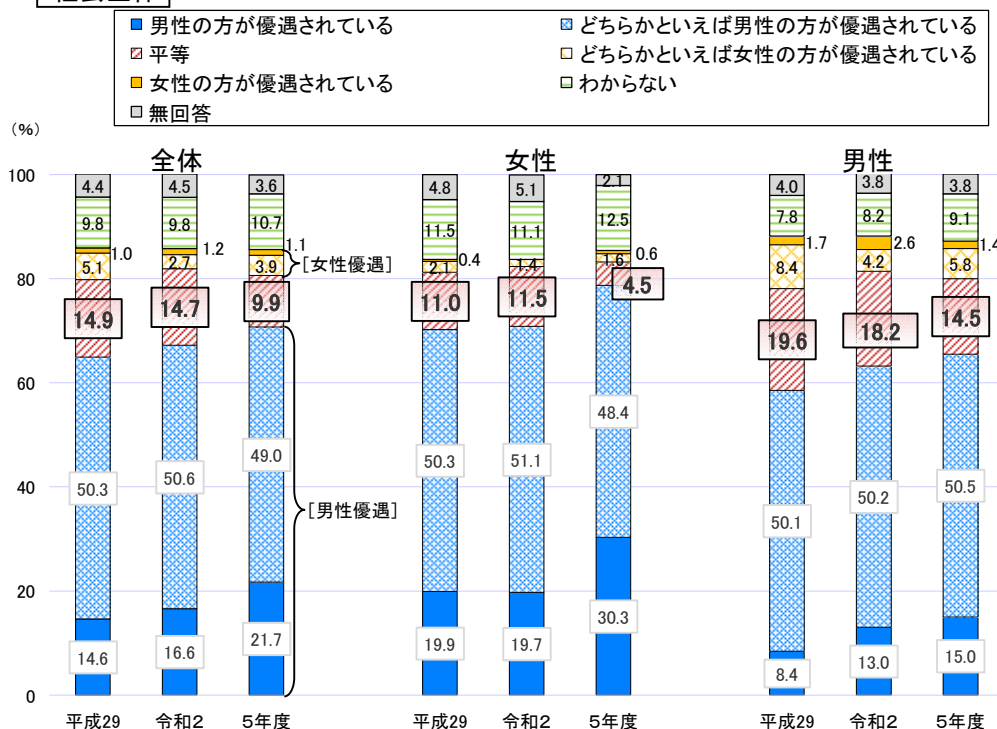
資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」(令和7(2025)年度)
(調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女2,044人)

社会全体で「平等」と回答した人の割合は
女性 4.5%
男性 14.5%

男女の地位の平等感について、社会全体において「平等」と回答した人の割合は9.9%となっており、前回調査より4.8ポイント減少しました。中でも「平等」と回答した女性の割合は4.5%で、男性の割合より10ポイント低い状況にあります。引き続き、性別に関する固定的な意識の解消に取り組む必要があります。

37. 男女の地位の平等観

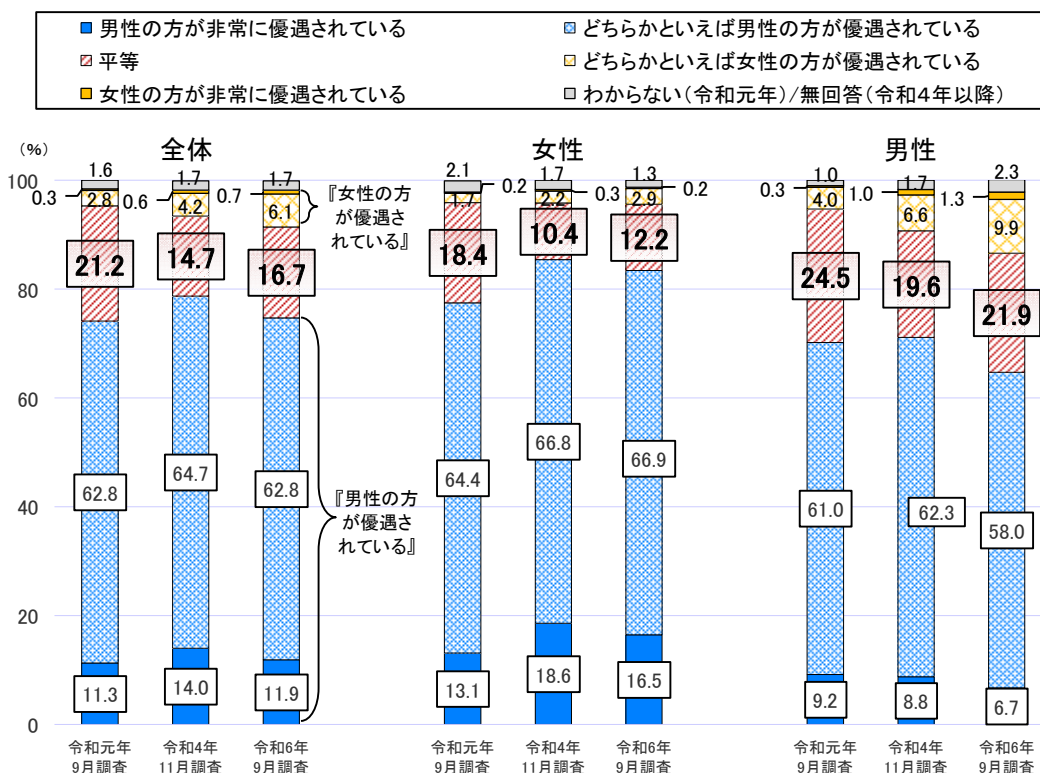
社会全体



資料：広島県「広島県政世論調査」（令和5（2023）年度）
（調査対象は、県内在住の満18歳以上の県民2,000人）

また、全国の男女の地位の平等感について、社会全体において「平等」と回答した人の割合は令和4（2022）年11月調査では14.7%であったのに対し、令和6（2024）年9月調査では16.7%と2.0ポイント上昇しています。

37-1. 【参考】社会全体における男女の地位の平等感（全国）



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和6（2024）年度）

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきとの意見に

賛成 39.0%

反対 61.0%

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、反対計が賛成計を大きく上回っています。

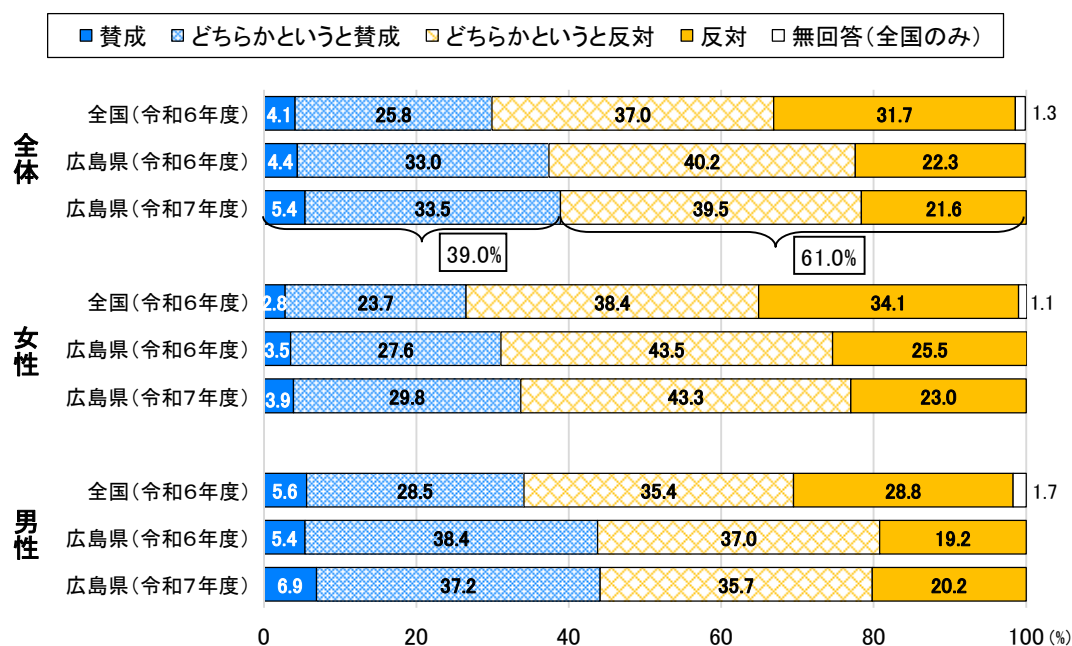
男性の賛成計 44.1%、女性の賛成計は 33.7%と 10.4 ポイントの男女差が見られます。

また、全国と比較すると賛成計がやや高くなっています。

男女の役割について『家計を支えるのは男性の役割である』では「そう思う計」が「そう思わない計」を上回っています。

その他の項目では「そう思わない計」が「そう思う計」を上回っており、多くの項目で「そう思わない計」が大きく、上回っています。

38. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方への意識

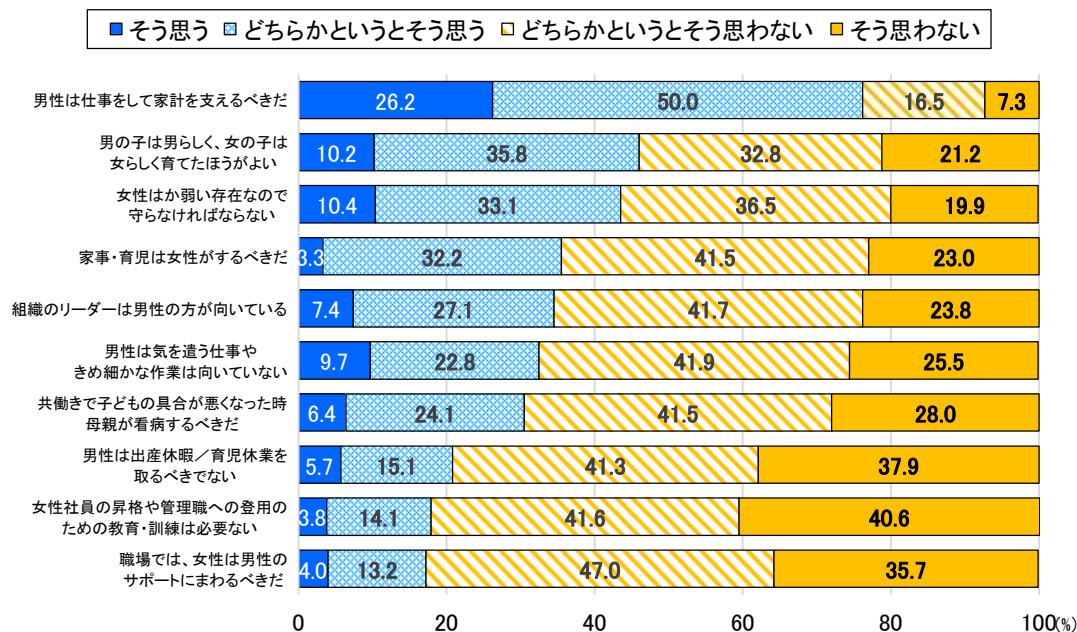


(注) 全国全体・性別については、内閣府のデータを18～60代ベースで算出、割り戻して計算しているため概算値

資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」(令和7(2025)、令和6(2024)年度)

(調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女(令和7年：2,044人、令和6年：1,038人))

38-1. 男女の役割に関する意見



資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」(令和6(2024)年度)

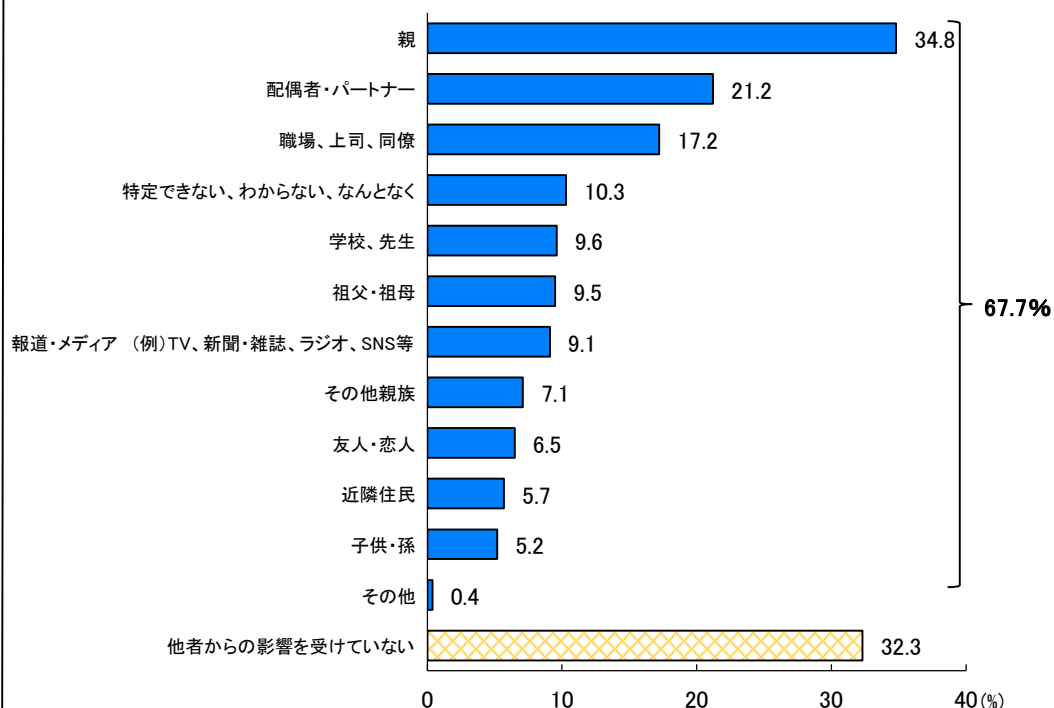
(調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女1,038人)

性別に関する意識について、他者から影響を受けている人は、

67.7%

性別に関する意識について、影響を与えた存在は、「親」と答えた人が34.8%で最も多く、次いで「配偶者・パートナー」「職場、上司、同僚」の順で割合が高くなっています。

38-2. 性別に関する意識について、影響を与えた存在（複数回答）



資料：広島県「男女双方の意識改革に係る調査」（令和7(2025)年度）
（調査対象は、県内在住の15歳～69歳の男女2,044人）

2 主体的に仕事やライフスタイルを選択する意識の醸成

「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」等を実施している学校は **37 校**

ライフプランニング教育プログラム等を実施している県立高等学校は 80 校中 37 校（46.3%）と、前年度より、7 校増加しています。

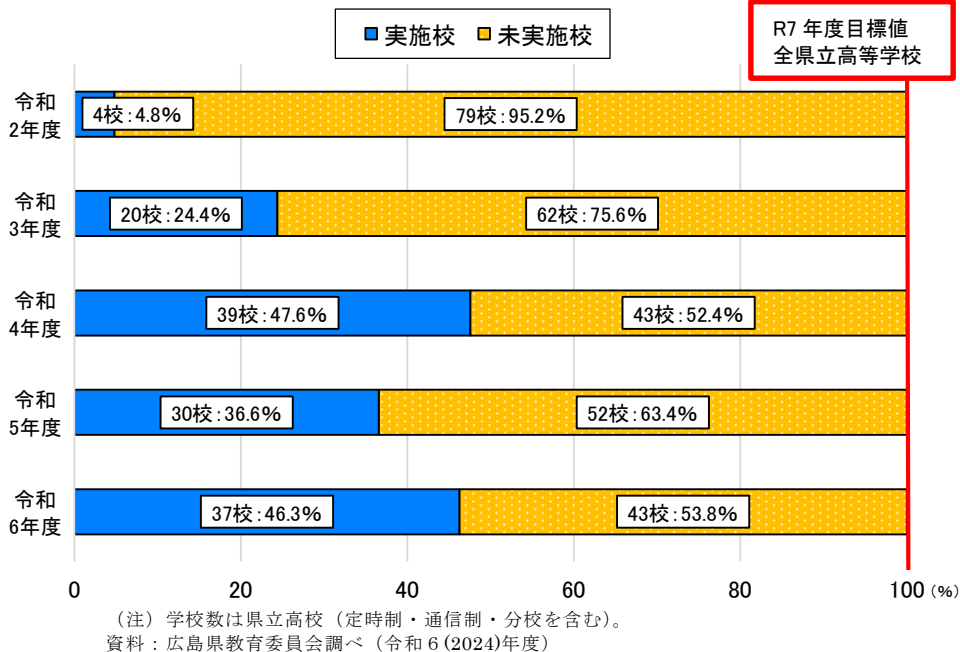
【高校生のためのライフプランニング教育プログラム】

様々なライフイベントを踏まえた生活の中で、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら高校生が主体的に判断し、考え意思決定できる能力と態度を育成するプログラム。

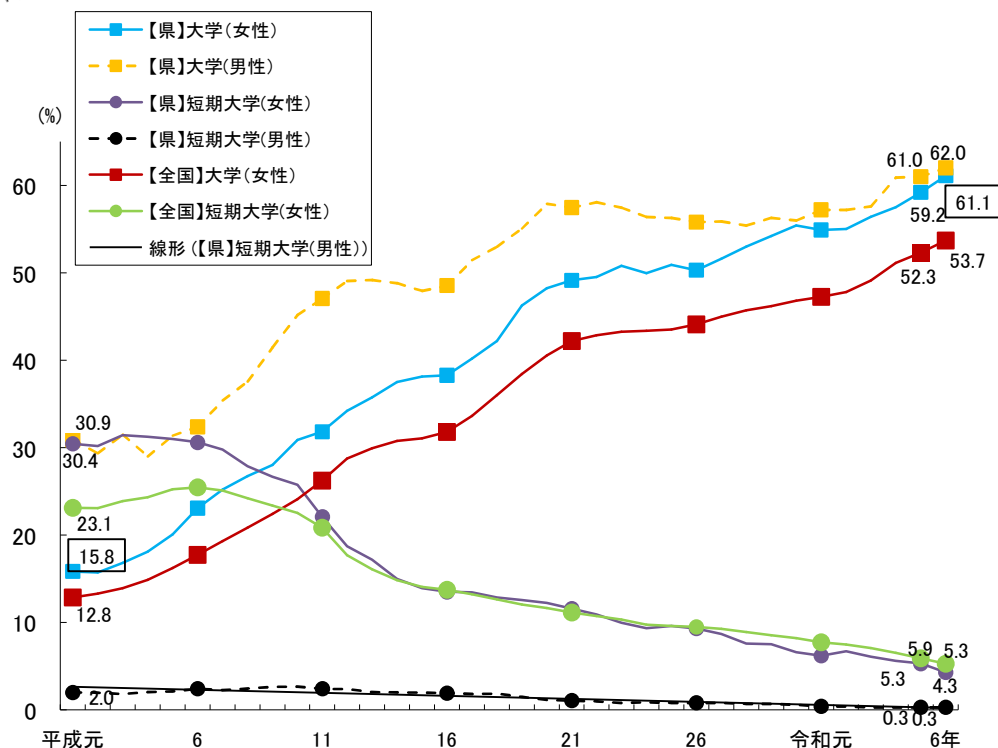
大学進学率は
女性 **61.1%** で
過去最高

女性の大学への進学率は上昇傾向であり、令和 6（2024）年度は、女性 61.1%と全国の53.7%を大きく上回っています。また、男性の進学率も62.0%と、過去最高値を更新しました。男女差は、前年度1.8ポイントでしたが、今年度は0.9%とその差は大幅に縮まりました。

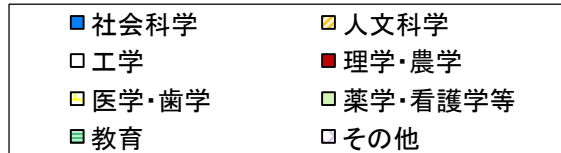
39. 「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」等を実施している学校数



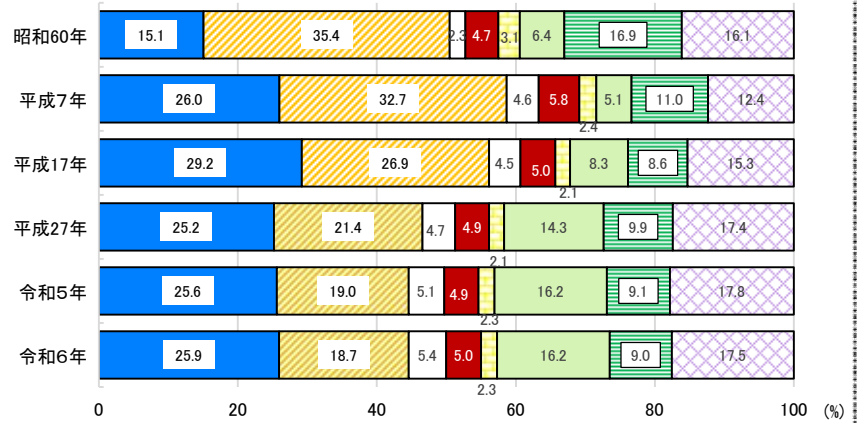
40. 男女別大学・短期大学進学率の推移（全国・県）



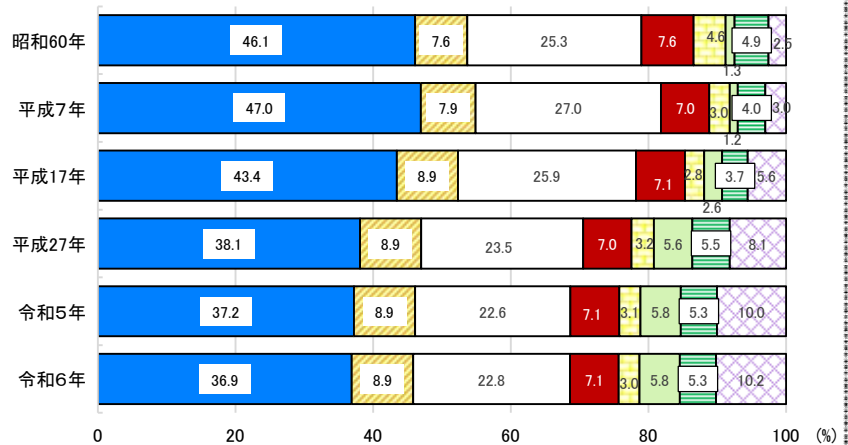
41.【参考】専攻分野別学生割合（大学（学部））の推移（全国）



【女性】



【男性】



（注）その他は「家政」「芸術」「商船」「その他」の合計
国立・公立・私立の全てを含む。

資料：文部科学省「学校基本調査」（令和6（2024）年度）